熊野高校空手道部　女子団体組手、女子個人組手、女子個人形
令和4年度全国高等学校総合体育大会空手道競技大会
第 49 回全国高等学校空手道選手権大会　出場

2022年8月、空手道部は愛媛で行われたインターハイ空手道競技の部に参加してきました。

講堂の建て替えとも重なり、練習場所の確保等に苦しんだ世代でもあります。練習場所の確保等で皆さんにご協力をいただきました。特に、体育館種目の皆さんには都合をつけていただき、ありがとうございました。そんな中で、工夫をこらし、部員は主体的な態度で練習に取り組んできました。その集大成となる全国大会出場であり、一緒に練習に取り組んできた男子部員、そして皆さんの代表として愛媛で全力を尽くしてきました。皆さまの応援、本当にありがとうございました。

参加部員の声をまとめました！

奥　菜々美（個人形）

インターハイに行って上手な人の形を実際に見ることで、自分にまだ足りない所について知るなどたくさん勉強になりました。今回学んだところを改善し、来年のインターハイで最高の形ができるように頑張ります。

久世楓利（女子次期主将、団体組手）

インターハイに行きレベルの高い試合を見て感じたのは、「もっと自分も頑張らないといけない、このまま満足していてはだめだ」ということです。3年生は、2回戦（小松大谷）の試合で強い相手にもかかわらず、勝負をしに行く姿がとても格好良かったです。残念ながら、敗退しましたが、3年生の試合の姿を見て、自分もこうなりたい，来年も自分たちの代でインターハイに行きたいと思う気持ちが強くなりました。

自分たちの目標は、まず新人戦で団体組手優勝をして、来年の夏総体で優勝してインターハイに行くことです。もちろん玉置先輩や小原先輩のように個人も頑張りたいです。
3年生とインターハイに行けていい経験、いい思い出ができました。

女子主将　玉置里佳（団体組手、個人組手）

個人組手、初戦は強豪、御殿場西戦でした。結果から言うと0対6で負けてしまいました。相手は、最初コートに入る時からすごく迫力があって少し萎縮してしまい、初めの方は自分が思うようには動けませんでした。それが個人戦の中での課題だったと感じます。後半にかけて自分の攻める組手ができるようになってきましたが、相手には1ポイントも取れないまま試合が終わってしまいました。個人戦は、各県上位2人までしか出られないので、すべての試合にそれぞれ迫力があり、たくさん学ぶことがありました。

自分は10月に高校空手最後の個人戦があります。そこでは最初から自分の組手ができるように残り少ない練習を頑張っていこうとインターハイを通して感じました。

小原亜悠（団体組手、個人組手）

初戦はシードだったので二回戦目から始まりました。相手は呉港高校でした。緊張もしていましたが、落ち着いて組手ができたので3－1で勝つことができました。三回戦目は聖和学園高校とあたり、結果は2－3で負けてしまいました。あまり自分から攻めずに待ちすぎていていつも通りに動けなかったのが敗因だと思いますが、団体戦の前に実際に試合をしてダメだったところに気づけて良かったです。そして、インターハイという大きな大会で個人戦に出場できたことや、強豪校の選手の試合を間近で見ることができて嬉しかったです。とてもいい経験になりました。

団体組手（玉置里佳、小原亜悠、田野上空唯、井澗世梨沙、玉置穂香、村田萌、久世楓利）

団体組手は、初戦はシードだったため 2 回戦からでした。相手は小松大谷高校でした。相手は、攻める組手を全員が心がけていて、カウンターの準備をしながらつめること、そして技を出して審判の止めがなるまで止めないことを意識していました。強い相手ではありましたが、全国の舞台で「楽しむ」ことを大切に試合に挑みました。試合を見ていて、全員とてもいい動きをしていたと感じました。自分の試合に関しては、決して悪い試合ではなかったものの、2 敗で回ってきて勝たなければいけない状況で負けてしまい流れを変えることができなかったことが本当に申し訳なかったと思いました。結果は 0 対 5 で負けてしまいとても悔しかったです。けれど、このメンバーで選抜大会、インターハイと 2 回も全国に挑戦できて本当に嬉しかったし、楽しかったです。熊野高校空手道部は先輩方、後輩、同期、そして先生と、全ての人が優しく時には厳しく、自分たちを全国で戦えるようご指導くださいました。自分は本当にこの方々に出会えて幸せです。ありがとうございました。

一緒に最後まで戦ってくれた仲間へ。本当にありがとう。皆がいなければ自分はここまで強くなれなかったと思う。キャプテンとしての仕事は何もできなかったかもしれないけど、一緒にここまでこられたことが自分の人生の中の一つの大きな宝物です。皆と空手ができたこと誇りに思います。ありがとう。